

## 自殺予防（SOSの出し方）教育について

### 1. 社会の現状を踏まえた系統的な指導案の作成

- ・他教科（保健体育・理科・道徳）と横断的な指導内容を仕組む。
- ・小学5・6年（高学年）から中学1・2・3年生と発達（成長）段階に応じた指導内容を仕組む。

### 2. スクールカウンセラーと連携した指導の充実

- ・中学校全学年でSOSの出し方に関わるDVDを視聴し、自己の在り方を考えたり、振り返ったりした。
- ・個人を振り返る「ワークシート」を活用し、自己を振り返ってまとめた。
- ・グループ活動で相手との模擬活動（相談し合える関係づくり）を通して、相手のわずかな言動の変化に気がつくことや相談を受けた時の言動の在り方などかわり合いの大切さを理解し、今後の日常生活で活かせるように取り組めた。
- ・学校生活はもちろん、家庭やその他の活動の中で、不安をひとりで抱え込まず、スクールカウンセラーや身近にいる大人、仲間など相談することの大切さを感じることができた。

### 3. 各校で指導案に基づいて「教育活動（授業）」を実践し、振り返り（評価）、改善を繰り返す

- ・夏休み前後、小学5・6年生を対象に「指導案」を活用したり、「道徳の重点項目」「保健体育」で取り上げたりして実践を繰り返して行ってきた。

- ・5年生の保健体育の授業では、ひとりひとりが「悩みや不安に思っていること」を出し合い、交流し合う学習を位置付けた。心の不安を取り除くための対処方法を見つけ合うことができた。
- ・5、6年生対象に指導案を基に「いじめ」と関連づけて、「気持ちを吐き出させること」をねらい実践した。ストレスを感じていることを「本音」で話せる関係づくりや「自分の気持ち」をコントロールしながら「SOS」を発信していくことの大切さを学んだ。 【各小学校の生徒指導担当の先生より】

- ・小学3・4年生（中学年）は短学活（帰りの会など）を活用して、自己肯定感を高める「よさ見つけ」を継続しつつ、「絵から表情をみる」活動など、相手の変化を感じ取り、声をかけたり、誰かに伝えたりすることの大切さを学ぶ活動を実践した。
- ・町生徒指導部会を開催し、各小中学校の実践交流を行い、「発問」や「補助資料」など指導案の改善など見直しを積極的に行った。

### 4. 今後の指導充実に向けて

(1) 小学1～4年生への指導の在り方について検討を進める。

- ・「保護者に話せる関係づくり」「命の大切さ」を重点に短学活（朝・帰りの会）や道徳の授業を通して学びの場を位置付けていきたい。
- ・低学年では道徳の学び「命の大切さ」を「絵本の読み聞かせ」を月1～2回程度、担任が継続して行い、「命の尊さ」を感じ取ることを積み重ねていきたい。
- ・短学活で「よさを広める活動」を継続しながら、「明日につながる目標づくり」を進め、子どもから家庭で話ができる環境づくりを進めていきたい。
- ・授業参観、懇談時及び通信を通して、自殺予防教育の取組を発信することで保護者の方への協力をより強く求めていきたい。

(2) 「信頼できる人に少しでもはやく相談」できるように指導援助を積み重ねていくことを大切にする。